



「薬の窓口」は過去の資料も含めてホームページで公開しています。参考にしてください。

## よく使われている解熱鎮痛薬の特徴と使い分けについて紹介します。

### ➤ ロキソニンとカロナールの違いをご存知ですか？

これらの薬の名前は、誰もが一度は耳にしたことがあるはずです。どちらも痛み止めとして頻繁に使われ、熱を下げる作用を併せ持つため、解熱鎮痛薬と呼ばれています。

しかし、**同じ解熱鎮痛薬でも、使える年齢や現れやすい副作用と違った特徴が異なります。**病院では患者様の状態に合わせて薬を処方していますが、ドラッグストアで買える「頭痛薬」や「かぜ薬」などの一般用医薬品（市販薬）にも有効成分として含まれているので、違いについて知っておきましょう。



### ➤ 代表的な解熱鎮痛薬の比較表

イブプロフェンとロキソプロフェンは名前が似ています。これは同じ構造を持っているため、特徴にも共通する部分が多いです。

分類	NSAIDs		非ピリン系解熱鎮痛薬
	イブプロフェン	ロキソプロフェン	アセトアミノフェン
一般名(成分名)	ブルフェン イブ	ロキソニン	カロナール タイレノール
主な商品名			
解熱作用	○	○	○
抗炎症作用	○	○	×
小児への投与	医療用 △ 消炎・鎮痛のみ 5歳以上	一般用 × 15歳以上	× 15歳以上
妊婦への投与	× 初期は投与可、中期は要注意、後期は投与不可（禁忌）		○ 比較的安全だが妊娠後期は要注意
市販薬の販売	○	○ 錠剤は薬剤師による販売	○
主な剤形	錠剤	錠剤, 貼り薬, 塗り薬	錠剤, シロップ, 坐薬
主な副作用	胃部不快感, 消化性潰瘍, 腎障害, アスピリン喘息		肝機能障害

### ➤ エヌエスエス NSAIDsとは

非ステロイド性抗炎症薬 **Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs**の略です。

ステロイドは強力な抗炎症作用を持つ一方で、様々な副作用が起こりやすいことが知られています。

これに対して、**ステロイド以外の抗炎症作用を持つ薬**をまとめてNSAIDsと呼んでいます。有名なものでは、アスピリン、ジクロフェナク（商品名：ボルタレン）、インドメタシンも該当します。

ケガや病気で細胞が損傷を受けると、体内の酵素によって発熱・痛み・炎症を起こす物質が作られます。NSAIDsはこの**酵素の働きを抑える**ことで、解熱・鎮痛・抗炎症作用を発揮します。

ところが、胃粘膜や腎臓を保護する物質の産生に関わっている**別の酵素の働きも同時に抑えてしまう**ため、**胃潰瘍や腎障害**といった副作用が現れることがあります。潰瘍の予防として、胃薬と一緒に処方されることも多いです。

### ➤ 子どもや妊娠中の方にはアセトアミノフェン

インフルエンザで発熱している小児にNSAIDsを投与すると、脳症などの重い副作用が現れることがあるため、**ロキソプロフェンを小児に使用してはいけません。**

妊娠中の方に対するNSAIDsの投与は、**妊娠中期以降では胎児に悪い影響を与える可能性があり、特に妊娠後期では使用してはいけない**ことになっています。

アセトアミノフェンはNSAIDsに比べて安全性が高く、小児や妊婦でも使うことができます。市販のアセトアミノフェン製剤は、3か月～1歳から使用できるものもあります。妊婦では長期に渡って使用するのは極力避けてください。

### ➤ 副作用の違い

NSAIDsでは、上で述べた副作用のほかに、**アスピリン喘息**が起こる可能性があります。大人で喘息を発症した方に特に多いです。また、腎臓への血流量が低下することから、**腎機能の悪い方には使いづらく、特に高齢者では長期間投与しない**など注意が必要です。

アセトアミノフェンは主に肝臓で分解されるため、特に高用量で服用している場合は**肝機能障害**が起こりやすいとされています。NSAIDsと同様にアスピリン喘息を誘発することもあります。低用量であれば比較的安全に使用できます。

医薬品を服用する際は、説明書や添付文書などの用法用量・注意事項をよくお読みください。